

(別記様式)

令和4年度 府立桃山高等学校(定時制) 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階) ・ 実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 「働きながら学ぶ」という定時制教育本来の意義・目的を正しく認識させ、自主的・計画的に学ぶ生徒を育成する。 2 基礎学力の向上を図る。 3 基本的生活習慣の確立に努める。 4 指導内容、指導方法の工夫に努め、学習意欲を喚起し、教育効果を高める。	成果 (1) 各学年や各分掌が相互に連携を取り、安心・安全な学校作りに努めた。また、生徒会活動を大切にし、多くの校内行事を工夫して成功に導くとともに、クラブ活動の積極的参加を促すなど、多様な生徒に対して各方面で教育成果を上げた。 (2) 進路実現に向けて、「キャリア教育講演会」など、早い段階から進路指導の充実に努めるとともに、各関連企業・機関との連携指導を丁寧に行い、多くの生徒の進路の実現を目指して粘り強く指導した。 (3) 設備面では全日制と併置されている現状において、教務部を中心に校内的な調整を丁寧に行い、教育活動が円滑に進むよう努めた。 課題 (1) 感染症拡大に伴う教育への影響が長期化する中、衛生管理をしっかりと行って、安心・安全な学習環境の確保により一層努めていく必要がある。また、問題行動等の未然防止を図るとともに、個々の生徒の状況に応じて自尊感情や自己有用感を高めるための取組を一層充実させる必要がある。 (2) 希望進路の実現のため、キャリア教育の一層の充実が重要である。そのためには、基礎学力の定着及び基本的生活習慣の確立を図るとともに、クラス担任や教科担当者、関係分掌等が生徒の情報を共有し、個々の生徒の特性に応じた指導方法や指導内容等の工夫をさらに図る必要がある。	1 卒業を目指し、高等学校に学ぶこと、並びに「働きながら学ぶ」ことの意義を理解させるとともに、学校生活に目標・目的を持たせることにより、学校生活への定着を図る。 2 生徒相互に助け合い、励まし合う生徒集団の育成を目指して、生徒会活動を大切にしたい取組を進めるとともに、様々な学校行事の充実に努める。 3 希望進路の実現に向けて、3年間・4年間を見通して、早期より、計画的にキャリア教育を推進する。 4 個々の生徒にきめ細かな指導を通じて、基礎学力の定着と生活習慣の改善を図るとともに、社会性や規範意識の涵養に努める。 5 特別な支援を要する生徒については、外部機関と連携しながら、特別支援会議を中心として支援の内容を明確化、全体化して、適切な指導に努める。 6 令和3年度各分掌等の総括を踏まえ、学年部と各分掌や、教科担当とクラス担任の情報交換をさらに密なるものにするるとともに、家庭や関係機関と丁寧に連携を図り、課題解決のための取組を進める。 7 ICTを活用した教科・ホームルーム指導を積極的に進める。

※ 評価について A…十分達成できた B…おおむね達成できた C…あまり達成できなかった D…ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
生徒指導	平和で安全で楽しい学校作りに向けた取組の推進	各学年・各分掌との密接且つ有機的な連携による平和で安全な学校作りに向け、生徒の問題行動の抑止に資する啓蒙的な指導をし、問題行動が生じた場合に迅速且つ適切に対処する。			
		生徒が学校に定着できるよう学校生活を楽しいと感じられるものにすべく、生徒会と連携して文化祭を始めとする各行事に積極的に取り組ませ、また部活動を通じて人間関係の幅を拡げつつ活動に対する明確な目標を持たせることにより積極性を培う手助けをする。 今年度も新型コロナウイルス感染症の感染の広がり具合には予断を許さない状況にあるため、これに適切且つ迅速に対応し楽しい学校生活が損なわれないように努力する。			
学習指導	生徒の実態に即した教育課程の編成と実施	多様な観点による学習評価の工夫や改善を図るとともに、実施開始年度にあたる教育課程についてさらに研究を深める。			
	個に応じた適切な学習指導の実践	生徒の学力を的確に把握し、基礎・基本を踏まえた粘り強い指導を実践する。 生徒の実態に応じてＩＣＴを活用した学習指導の工夫を図る。			
進路指導	個々の生徒の希望進路実現に向けた取り組みの推進	進路意識を高めるため、キャリア教育を充実し、推進する。			
		個々の生徒の希望進路を把握し、その実現に向けて、各学年や各分掌、外部機関と密に連携を図			

		る。			
健康教育	心身ともに健康な生活習慣の確立に向けた取組の推進	新型コロナウイルス感染症対策に向けて衛生管理に引き続き継続的に努める。			
		健康上の配慮や支援の必要な生徒に対する指導を組織的に推進していく。			
		生徒の食生活の実態を把握し、食育の一環として、給食を通した望ましい食生活習慣の確立を目指す。			
第1学年	・生徒1人1人の進級をめざす。 ・自他共に認め合う関係をつくり出す。(自己肯定感をもたせる。人格の違いを認め合う) ・学年集団として安全で安心して学べる、楽しい学校生活をめざす。	・クラスを越えて、生徒の情報を共有し、担任団として学習・生徒指導にあたる。 ・授業を大事にする生徒たちの雰囲気や学習集団、学年集団へと広げていく。 ・関係各部との連携、迅速な対応。保護者への説明、子どもに対する理解と保護責任の協力を得る。			
第2学年	・良い学年・クラス集団を形成する。 ・自主自立できるようになる。	・授業を大切にせず欠席をしない。 ・自分を認め、他人を認め合い、人間関係を大切に考える。 ・ルールを守り、行事を大切にせず、楽しく学校生活をおくる。			
第3学年	・毎時の授業を大切にし、進級する。 ・成人としての自覚を持ち、進路を考えて行動する。 ・誰にとっても居やすい雰囲気作りに貢献する。	・担任団全員で学年全体を指導し、授業や行事に前向きに参加させる。 ・進路を意識させる声掛けを行い、進路希望の方向性をもたせるようにする。 ・各分掌や保護者と適切な連携を図る。			

第4学年	進路実現・卒業を目標とするクラス集団を育成する。	・働くという視点から、卒業後の生き方を具体的に考えさせる。 ・アルバイト・学校生活のさらなる充実を図る。 ・家庭や関係機関と連携して、個々の生徒に丁寧に対応する。			
事務・施設	学習環境の充実と安全・衛生を確保するため、施設・設備の充実に努める。	学校運営費予算だけでなく、本庁所管課への予算要望と、本庁各課との調整による予算確保に努める。			
		校内巡視による施設・設備の点検を実施し、危険箇所・老朽箇所の早期発見に努め、改修につなげる。			
		学校全体や各分掌の状況を踏まえ、計画的な予算執行に努める。			
	個々の生徒の状況に応じて、修学支援に係る援護制度について、適切な対応を行う。	クラス担任との情報交換を密にし、経済的理由により修学が困難になることがないように、個々の生徒の状況に応じた援護制度についての適切な対応を行う。			

学 校 関 係 者 評 価 委 員 会 に よ る 評 価	
-------------------------------------	--

次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性	
---------------------------------	--